

市民交流団員募集

～友好都市・岩手県遠野市へ

民話の里「岩手県遠野市」への市民交流団員を募集します。

受け継がれる昔話語り、市民手づくりのミュージカル「遠野ファンタジー」鑑賞のほか、遠野市の各種グループとの意見交換会を行い、市民レベルでの心あたたまる交流を行います。遠野市は約4人に1人が菊池(地)姓であることから、菊池一族との歴史的つながりも推定されるところです。平成10年から交流を行い、平成18年4月8日には合併して友好都市の調印締結を行いました。

と き 平成22年1月30日(土)～2月1日(月)
2泊3日

募集数 10人
参加費 個人負担 約50,000円
(都市間交流の会負担40,000円/人)

応募資格 地域の歴史、文化を継承し、まちづくりを担う人材育成を目的とし、交流後は「菊池都市間交流の会」の会員として市民相互の交流や、まちづくりに参加できる人。

応募方法 応募票の提出が必要となります。詳しくはお問い合わせください。

応募締切 12月11日(金)必着

問い合わせ・応募先 菊池都市間交流の会事務局(菊池市役所国際交流課内)

「新たな西郷像を語る」講演会
「菊池源吾」とは西郷隆盛公が奄美大島龍郷町に潜住したとき名乗った名前です。西郷家は菊池氏初代則隆公の子(政隆)が七城町西郷地区に居を構えたことに始まりま

菊池源吾に学ぶ会は、西郷隆盛公の偉業の足跡をたどり人間性や生き方などについて学習している会です。今回、西郷隆盛公研究の第一人者とも言われる鹿児島市立西郷南洲翁顕彰館の高柳館長を菊池市にお招きし講演会を開催します。たくさん

西郷・大久保の関係、西郷の維新の目的など
入場料 無料
菊池源吾に学ぶ会に興味のある人の入会も随時受け付けています。
問い合わせ先 国際交流課



西郷南洲先生祖先発祥の地の記念碑

ふるさと歴史探訪「きくちの近代遺産を歩く」参加者募集

菊池市にのこる近代の文化遺産を訪ね歩く「ふるさと歴史探訪」の参加者を募集しています。ぜひご参加ください。

と き 11月28日(土)
午前9時集合
午後3時解散(予定)
菊池市役所集合

見学先 藤田橋、円通寺、姫井橋、花房飛行場跡、泗水社跡、伊牟田塾跡、高島舟着場跡、古耕精舎跡などを予定しています。※貸し切りバスでの見学になります。

募集期間 11月9日(月)～11月18日(水)の平日
募集人数 50人程度(先着順)
参加費 一人500円
その他 活動しやすい格好で来てください。詳細は後日参加者にご連絡します。
問い合わせ・申込先 生涯学習課文化振興係



菊池市内無形民俗芸能行事を「ご覧ください！」

菊池市内には囃子や神楽、獅子舞、太鼓などの民俗芸能が数多く保存伝承されています。そのなかから今回は出田の獅子舞、岩本神楽、田島菅原神社神楽を紹介いたします。勇壮な獅子舞と地域に伝わる神楽をぜひご覧ください。

出田の獅子舞(出田)
先導役の拍子木と掛け声に導かれ、横笛と太鼓の奏にのって舞う勇壮な獅子舞は古くから伝わる芸能で、地元の小学校でも後継者育成・地域学習に活用され多くの場所で発表されています。

○出田若宮神社秋祭り奉納
と き 11月25日(水)
と き 午後7時ごろ
と き 出田若宮神社

岩本神楽(旭志并利)
明治4年から始められた神楽は8座で構成され、奉納のほか、要請があれば隣接区の祭りで奉納し、着実に保存活動を行っています。また、神社の夏祭りのときには「茅の輪くぐり」も行っています。

○岩本菅原神社秋祭り奉納
と き 11月25日(水)
と き 正午ごろ
と き 岩本菅原神社

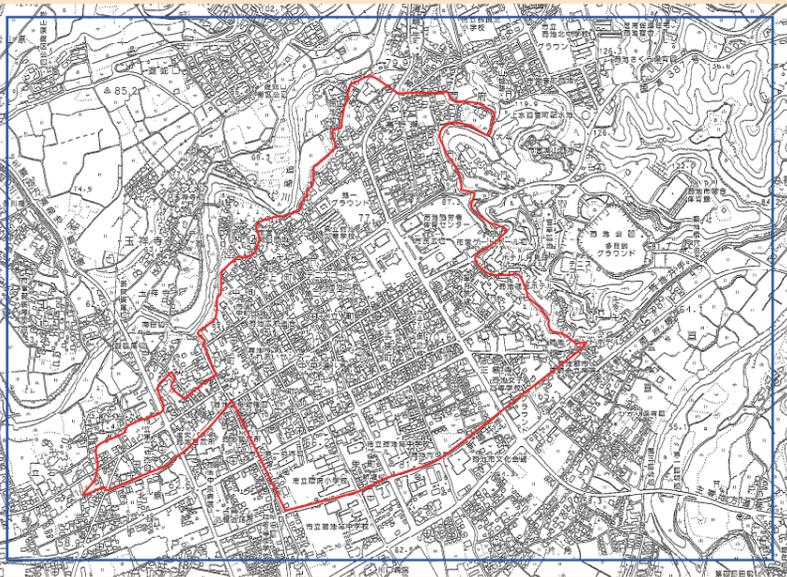
○岩本天神奉納
と き 12月15日(火)
と き 午後6時ごろ

現在の神楽は岩戸神楽の流れを汲むと言われ、8座で構成されるなかには面を付けるものもあります。奉納のほか、地元保育園の子どもたちに神楽を教え、発表するなど後継者候補生を育てています。

○田島菅原神社秋祭り奉納
と き 11月25日(水)
と き 午前11時ごろ
○正月奉納
と き 12月31日(木)
と き 午後11時30分ごろ



隈府市街地を埋蔵文化財包蔵地にしました



近年の調査の成果に伴い左図のとおり、赤枠で示した範囲を埋蔵文化財包蔵地として熊本県遺跡地図に登録しました。

文化財保護法に基づき、この赤枠内で次の工事をする際は、事前に届出が必要になります。詳しくはお問い合わせください。

該当工事 ビル建設工事、住宅立替工事、駐車場舗装工事、土木工事など

問い合わせ先 生涯学習課文化振興係

韓国発見シリーズ⑤ こんには金は金です

◎今回の今回は「キロギ・アツパ(雁お父さん)と韓国の英語教育熱」について紹介します。

韓国人の英語教育熱を表わす言葉に「キロギ・アツパ」がある。子どもの英語教育のために妻子を英語圏(主にアメリカ)に送り、自分は韓国に残り妻子の学費と生活費を送る。渡り鳥のように韓国と家族の間を行き来する父親の姿を雁に例えた言葉だ。最近では、韓国に一人残った父親が孤独感から自殺する事件も起きたが、韓国人の英語熱は冷めない。

韓国では1997年に小学校3年生から英語教育を始めた。2004年8月には京畿道安山市で初めて居住型英語村もオープンした。韓国最大規模の京畿道パジュ英語村は路面電車で入場すると銀行、店、レストランや市役所などが並び、英語を母語とする外国人が常駐し、外国気分を味わえる。

英語村は韓国に15ヶ所あり、低費用で英語に触れることを目的とする。例えば昌寧郡は、人口6万人位の小さな自治体だが、廃校を活用し小規模の英語キャンプを設置している。

現在、韓国政府は2010年



菊池市役所 国際観光マネージャー 金 相廷さん

をめぐり済州島に9千人収容規模の英語教育都市を造成する計画だ。ここではほとんどの科目を英語で行う。入学対象は小学校3年から中高生で、期間は1年を原則とし更に1年間延長できる。ここは正規学校課程と連携するので2年生課程を過ごせば、元の学校で進級できる。

韓国人が英語教育に熱心なのはなぜだろう?輸出に大きく依存する韓国経済では英語は必須だろう。そして孟母三遷の教育熱心がある。我が子を出させたいという過度の期待と、学歴が人生を大きく左右する韓国社会の現状だ。これは韓国が抱える問題でもあり、反面、長所かもしれない。

孟母三遷とは
孟子の母は、墓場のそばに住むと孟子が葬式のまねをした。それで市場近くに転居すると孟子が商人のまねをした。学校のそばに転居すると礼儀作法をまねた。これぞ教育に最適な場所として定住したという故事。教育は環境が大切だという教え。また、教育熱心な母親の例。